

第34回兵庫県学ぶ高齢者のつどい中央大会の結果概要について

兵庫県内の学ぶ高齢者が一堂に会し、日ごろの学びの成果を発表し、市町の垣根を越えて交流を深める「第34回兵庫県学ぶ高齢者のつどい中央大会」を11月22日（金）、西播磨文化会館（たつの市）で開催しました。約350名の高齢者が集い、学びの深化と交流の輪が広がりました。

【午前の部：開会式・高齢者の主張】

大会は、大会実行委員長であるたつの市の山本実市長の開会のことばに始まり、主催者代表の西播磨県民局遠藤英二局長、来賓代表には、兵庫県議会総務常任委員長の水田裕一郎議員から、学ぶ高齢者への期待と激励を込めた「挨拶・祝辞」が述べられました。



開会式

続く「高齢者の主張」では、県内8地域からの代表者が、「学びと生きがい」をテーマとして発表を行いました。

発表者はそれぞれ、これまでの人生経験や高齢者大学での学びを通じて得た思い、これからの人生を前向きに歩んでいきたいという希望を、熱心に、時にユーモアを交えて語り、参加者から大きな拍手が送られました。



主張発表

【午後の部：記念講演】

午後には「三木露風とその母一碧川かた」と題し、姫路大学教授の和田典子氏による記念講演を行いました。

講演では、たつの市を代表する詩人三木露風の生涯が、母の存在なしには語れないものであり、母への思慕が童謡「赤とんぼ」を美しくもせつない故郷の情景とし、幼児から少年に成長する感情を主題とした象徴詩であると説かれました。多くの参加者にとっても故郷を懐かしむひとときとなりました。



記念講演

【作品展】

西播磨文化会館美術展示室とパフォーマンススペースでは「作品展」を開催し、書・日本画・洋画・工芸・写真・彫刻・手芸の7部門に、県内各地域から選出された優秀作品合計137点を展示しました。



作品展